

旭川医大 病院ニュース



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



年頭にあたって

旭川医科大学病院長 平田 哲

明けましておめでとうございます。短い年末年始の休暇でしたが、ゆっくり過ごされましたか。本年もよろしく願いいたします。

今年の干支は「犬」もしくは「戌」です。犬派の私としては嬉しい感じですが、辞書で調べると、「戌」は「滅」すなわち「ほろぶ」の意味もあるそうです。草木が枯れる状態から、次の新しいステップへの一歩へとという状態とも言われています。期待を込めて、本院も新たな一歩を踏み出せる年になることをお祈りいたします。

昨年心配しておりました病院運営も大幅かつ順調に改善しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。一方で、今年は2年に1度の診療報酬改定の年です。介護報酬とのダブル改定で、いよいよ高齢化や少子化が全国に広がっていく時代へ、国が政策を実行していく年になりました。我々は4-5年前に厳しい経営状況を経験し単科大学の弱さを感じました。その後、職員が一致団結して経営的に乗り切ったという強さの面も再認識できました。診療報酬改定2018の正式な詳細はまだ決定していませんが、「重症度、医療・看護必要度」の基準を満たす患者割合が25%からさらに上げられると考えられます。7:1看護による人的資源の適切な配置を考慮しての策と考えられ、大学病院でも全ての病棟が7:1体制でなくても良いという意見も出てきております。本院は地域の高度急性期病院として存在していますが、今後、亜急性期病床、回復期病床のある医療機関との連携を強くしていかなければなりません。毎週開催されている病院長補佐会議では、日常の問題点から対策を打ち立て、現実的に実現可能な策を一つずつ進めてきました。

1. 医療機器更新

高度な医療を患者に提供している施設として、残念なことに、医療機器の更新をぎりぎりまで止めざるを得なかった時期がありましたが、タスクチームで院内機器の更新計画を立て2016年の後期より更新計画を進めてきております。

2. 外国人患者対応

海外からの観光客が増え、受診される外国人も年々増加してきております。この分野は国際連携担当チームが検討を進め、まずは専用タブレットを用いた通訳

システムを導入しました。今後も学長の掲げた旭川医大の方向性、すなわち「LocalとGlobalの接点を持った大学」に合わせ、病院も共に向かっていかなければならないと考えております。

3. 病院運営と人員配置

昨年是一般病棟の稼働率も90%前後を維持していただけてきました。その努力に感謝しております。病院の収益に大きく影響する数値は「稼働率」、「一日入院単価」と「手術件数」です。これらの数値の維持のためには、患者の入退院に関わる部署の充実であり、本院の喫緊の問題として考えております。中にはやや低稼働の診療科もあり、診療科長を中心に改善いただくようお願いしているところでもあります。また、昨年から外来の在り方についての改革も進めて、マンパワーと各外来ブースの利用・再分配担当を検討していただいております。限られた資源の中で、高度急性期病院としての外来機能の在り方もあらためて考える時期に来ていると思われまます。また各部署から要望される人員についても会計課を中心とした事務方の将来を見越した次年度予算見積りに合わせ検討しております。

4. 駐車場問題

長年の駐車場問題は、外部資金によるアメニティ施設の開設により、現在より約200台増の駐車場が秋に完成します。この問題は大きく改善できると思われまます。

5. 職員個々の成長

職員の皆さんには、日常業務が多忙な中ではありますが、ワークライフバランスを考えつつ、学内の講演会や学外の学会、研究会などの参加もお願いします。医療は進化も激しく、4-5年でいろいろなガイドラインも変わっていきます。専門の職で置いてきぼりにならないように勉強しなければなりません。自分磨きの環境は充分あります。

最後に、全ての診療と業務の質改善など、職員の皆さまのご努力で他院に比較し大きく進んでおります。病院長として感謝しきれません。本年もよろしく願いいたします。

＝IRUDクリニカルセンター（地域拠点病院）に選定＝ ～倫理委員会の承認を得て活動開始～



IRUD 未診断疾患イニシアチブ

旭川医科大学病院は、29年度よりAMED（日本医療研究開発機構）リーディングプロジェクトであるIRUD（Initiative on Rare and Undiagnosed Disease）拠点病院に選定され、本学倫理委員会の承認を得て活動を開始しました。

IRUDは日本全国の診断がつかずに悩んでいる患者さん（未診断疾患患者）に対して、遺伝学的解析結果等を含めた総合的診断、および国際連携可能なデータベース構築等による積極的なデータシェアリングを行う体制を構築し、希少・未診断疾患の研究を推進するプログラムです。

旭川医科大学病院は、今後もIRUD拠点病院としての責務、遺伝について不安や悩みを抱えている方々やご家族、遺伝性疾患の患者さんや診断がつかずに悩んでいる患者さんなどに正しい知識を提供し、悩みを解決できるよう支援の提供を行っていきます。

お知らせ

★IRUDホームページを開設しました

【アクセス方法】

旭川医科大学病院HP → 遺伝子診療カウンセリング室 → 独自ページリンク → IRUD

「患者さんをご紹介いただく場合」 ※医療関係者

⇒「医療関係者の方へ」をご覧ください、旭川医科大学病院専用コンサルトシートにご記入の上、FAXで旭川医科大学病院 IRUD事務局にお送りください。一週間以内に電話でご連絡させていただきます。

コンサルトシート送付先
お問い合わせ先

旭川医科大学病院 IRUD事務局 FAX専用 0166-68-2879

★病院HP「遺伝子診療カウンセリング室」をリニューアル

「遺伝カウンセリング」について **（完全予約制）**

⇒臨床遺伝専門医と共に相談者とその家族にとって最善の選択肢を考えます。

遺伝性の病気ではないかと悩んでおられる方の不安や疑問に対し偏りのない遺伝医学の知識や情報をお伝えすることで正しい理解、受容及び意思決定ができるようお役に立ちたいと考えています。

詳しくはHPをご覧ください。

（注） お電話での遺伝相談はできませんのでご了承ください

遺伝でお悩みの方の窓口です

お申込み：地域医療連携室 TEL（0166）69-3055
受付日時：平日 午前9時～午後4時

平成29年度災害対策相互訪問事業による防災訓練を実施しました

平成29年11月2日（木）に国立大学附属病院災害対策相互訪問事業の一環として、防災訓練を実施しました。

この事業は、国立大学附属病院がお互いの災害対策能力を確認し合い、災害対策に関する不備事項の洗い出しや助言等を行うことによって、国立大学附属病院全体の災害対策に関する能力の底上げや標準化を図ることを目的として、平成25年度から行われているものです。今年度は本院が弘前大学病院による評価を受けるため、約220名の職員が参加する大規模な訓練となりました。

本院が本事業による評価を初めて受けたのは、平成27年11月に実施した国民保護共同実動訓練でしたが、今回の訓練は、「平成29年11月2日（木）午後3時00分に、北海道東部沖でM7の地震が発生し旭川市では震度5強を観測、病院ではライフラインの一部の被害に被害が発生したものの建物の損壊は免れ、被災地内の患者受け入れも可能な状態」といった状況を想定して本院独自で実施されました。

まず、訓練開始前に弘前大学病院の評価員によるヒアリングや書類確認が行われ、「災害対策に関するマニュアルが整備されているか。」「非常食や飲料水、医薬品が3日分以上用意されているか。」「医療チームを派遣する体制があるか。」等といった観点からヒアリングが行われました。

地震発生時刻の午後3時00分には、本学の災害対策マニュアルに基づき、平田病院長の指示により臨時の災害対応窓口が設置され、被害状況の確認、緊急災害対策会議が開かれた後、非常事態宣言が発出されました。同時に、災害対策病院本部が遠隔医療センター3階研修室に設置されるとともに、地域災害拠点病院としての災害対策体制に移行され、災害対策員は次々とトリアージセンターや救命救急センターに集合し、ピブスを受け取った後、指示されたエリアへ移動し、手際良く患者受入準備を行い



↑トリアージセンターで患者受入準備を行う災害対策員



↑医師、看護師がトリアージを実施



ました。

地震発生から30分後には、一人目の模擬患者が来院し、その後も続々と病院正面玄関や救急外来玄関に模擬患者が詰めかけ、さらに実際の救急車を利用

した患者搬送も行われ、緊迫した雰囲気の中、重症者・中症者・軽症者に振り分けるトリアージ、診察・処置・検査オーダーといった一連の多数傷病者受入訓練が行われました。

また、災害対策病院本部では、平田病院長の指揮・統括のもと、病院正面玄関に設置されたカメラ等を用いて病院全体の状況を確認しつつ、災害情報センターでは、各応急救護所から提出のあった災害用診療記録に基づいて、患者受入状況を記入したり、本部に次々と飛び込んできた情報やベッドコントロールの状況を記録したりするなど、情報収集にあたりました。「外来に帰宅できない患者がいるが、食事はどうするか?」「明日の外来予約はどうするか?」といった院内外からの問合せに対しても、災害対策病院本部員の指示や判断を仰ぎながら、対応にあたっていました。

訓練終了後には、平田病院長から「平日の訓練にも関わらず、多職種の職員に数多く積極的に参加していただき感謝したい。今回の訓練で明らかになった課題については、災害対策マニュアルに反映し、今後の改善に活かしていきたい。」と講評が述べられました。

弘前大学病院の評価員からは、「病院全体としての災害対応への意識の高さが感じられた。」と概ね高評価をいただきましたが、「災害時に混乱しないような動線の工夫」や「精神ケアを目的としたチームの整備」など、指摘を受けた点については、今後更なる検討を行っていきたいと考えています。

本院は今後も、定期的に様々な訓練を重ね、災害拠点病院として更なる強化を目指してまいります。



↑災害対策病院本部と災害情報センター



↑応急救護所における診察の様子

“心に残る看護エピソード” 冊子の作成にあたり

看護部看護職キャリア支援 職場適応支援担当 看護師 菊地美登里

二輪草センターの活動には、「復職支援」「キャリア支援」「子育て・介護支援」「病児・病後児保育」があります。

看護部では、毎年「キャリア支援」として、二輪草セミナーを開催しており、平成24年度からは“知っていますか？輝くナース”と題し、シリーズで行っています。専門性をめざしキャリアアップしている看護師、育児と仕事を両立させながら生き生きと働いている看護師、看護にやりがいと誇りをもって仕事をしている看護師、そんな輝いている看護師の体験談を聞き、自分自身のキャリアや看護について考える機会としています。

そのなかで、『中堅看護師が語る 心に残る看護エピソード』をテーマに、3回のセミナーを行いました。このセミナーでは、これまでの看護師経験のなかで、心に残っている忘れられない患者さんとの出逢いを語っていただき、それぞれがもう一度看護を深く考える機会になるように企画しています。

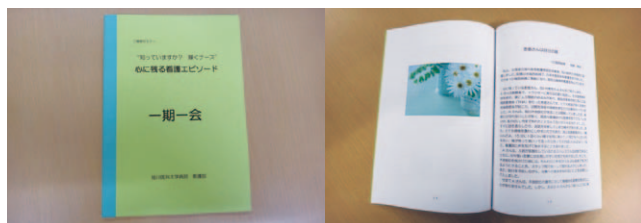
この度、その中堅看護師7人の語りを、広く皆さんに知っていただくために、手作りの冊子を作成しました。それぞれの看護師の感性や看護観が文章に込めら

れており、さらさら輝いている姿が読み取れます。そして、臨床現場ではその姿を後輩たちに見せてくれています。

語りの中で共通していることは、私たち看護師は、患者さんとの出逢いからたくさんを学び、力をいただき成長することができること、患者さんとの出逢いは、看護の原点と看護の素晴らしさを教えてくれ、自分自身を見つめ直す機会を与えてくれるということでした。

そのようなことから、表題を“一期一会”としました。大学の図書館にも置かせていただきましたので、ぜひご覧ください。

これからも、ひとり一人の患者さんとの出逢いを大切に、心を込めて看護をしていきたいと思えます。



クリニックラウンがやってきた！！



9月25日（月）、旭川医科大学病院の小児科病棟に「クリニックラウン」がやってきました！

今回も前回に引き続き、「大ちゃん」と「きゃしゃ」がみんなに会いに来てくれました。

楽しみに待っていた入院中の子どもたちが、医師や

看護師、病棟保育士と一緒に、音楽を演奏したり、皿まわしをしたり、また、プレイルームに集まり手品を鑑賞したりと、楽しい時間を過ごしました。

病気の治療のため、さまざまな制限の中で入院生活を送り、クリニックラウンに会えるのを楽しみに待って

いた子どもたちとご家族に、たくさん笑顔をお届けしてくれました。



「クリニックラウン」とは？

病院を意味する「クリニック」と道化師をさす「クラウン」を合わせた造語です。

クリニックラウンは、入院生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わり（コミュニケーション）を通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育む道化師のことです。（「クリニックラウン活動報告書」より抜粋）



病院長サンタがやってきた！

12月18日（月）の午後、病棟の子どもたちに、サンタクロースに扮した病院長、トナカイに扮した看護部長から、クリスマスプレゼントが配られました。

最初は緊張気味だった子どもたちも、サンタと会話をするうちに笑顔になり、病室はあたたかく明るい雰囲気になりました。



Merry Christmas

薬剤部 副作用情報 (69) カルシフィラキシス

2017年8月ワルファリンカリウムの重大な副作用にカルシフィラキシスが追加された。

カルシフィラキシスとは、周囲に有痛性紫斑を伴う有痛性皮膚潰瘍、皮下脂肪組織または真皮の小～中動脈の石灰化を特徴とする病態で、透析症例もしくは15 mL/min以下の高度糸球体濾過容量低下事例に見られる。特にワルファリン投与中の透析例に多く見られ、ワルファリン投与開始後半年から一年以内に激しい痛みを伴う紫斑として発症し、皮膚潰瘍へ進展する。発症率は透析患者10万人あたり年間3～4人と極めて低いが、発症すると感染症から敗血症を呈することもある。

原因は不明であるが、ビタミンKによる石灰化抑制作用と何らかの関連があるとされる。低栄養やカルシウム・リンバランス異常が深く関わっている可能性も考えられている。

初期症状として極めて強い有痛性の紫斑があり、周囲または潰瘍を発症していない部位にも有痛性紫斑を認めることがある。発症部位は四肢、体幹、手指、足趾、陰茎と多岐にわたるが上肢に生じることは少ないとされている。

治療法としてはまず、ワルファリンを服用している場合は中止し、副腎皮質ステロイドの外用、創傷のケア、細菌感染を伴う場合は抗菌薬の使用、潰瘍部のデブリードマン、腹膜透析症例は血液透析より本症の発症進展を促進するともいわれており、血液透析へ変更するのが良い。チオ硫酸カルシウム複合体を形成することでカルシウムを除去することと抗酸化剤としての効果も期待できることから、チオ硫酸ナトリウムの投与も有用であるとする報告もある。透析患者ではリン吸着薬を使用している場合が多いが、危険因子とされるカルシウム濃度上昇抑制を考慮し炭酸カルシウムを使用している場合には非カルシウム性の吸着薬に変更する。ステロイド剤の全身投与は本症にほぼ続発する感染症に対する増悪因子ともなることから推奨されない。

ワルファリンカリウムはカルシフィラキシスの他にもプロテインC低下に伴うワルファリン誘発性皮膚壊死の副作用もあり、発現機序が異なるため皮膚障害の鑑別には注意が必要である。

(薬品情報室 仲谷 彰規、大滝 康一)

臨床検査・輸血部発 中央採血室リニューアルオープン

いつも中央採血室業務にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

中央採血室の採血患者数は、年間約5000人のペースで年々増加しており、最近是一日の採血患者数が400人以上となる日が続いています。このような状況のなか、中央採血室では患者さんの待ち時間を少しでも短くできるよう、業務開始時には臨床検査技師5名、看護師4名の計9名で採血台をフル稼働して対応しております。

先日、中央採血室では採血管準備システムが更新され、10月10日にリニューアルオープンしました。それに伴い、受付から採血までの流れでいくつか変更がありますので、ご案内申し上げます。

- ① 採血室入り口付近の混雑解消、転倒などの危険予防のために、受付機2台を外待合に移動しました。また、受付機から発行される受付票（ピンク色）の文字を大きくし、見やすく工夫しました。



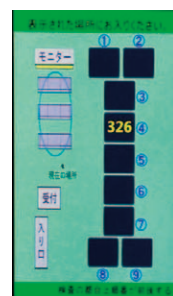
- ② 採尿と採血の出入り口を 受付機は外待合に設置別にし、採血室の中では行き来ができなくなりました。採尿のみの方は採尿後、各外来や他の検査へ向かってください。



- ③ 採血のある方は外 外待ち採血案内モニター

待合でお持ちください。2カ所ある外待合の両方にモニターを設置しましたので、番号表示に従って中待合にお入りください。

- ④ 中待合い前方には大きなモニターが設置されています。ご自分の受付番号が表示された採血台にお入りください。



中待合モニター

- ⑤ 全ての採血台に昇降機能が付き、どの採血台でも車椅子への対応が可能となりました。また、各採血台には患者氏名確認用モニターを設置しました。モニターには患者さんのお名前と、採血をオーダしている診療科名が表示されますので、患者さんご自身でもご確認をお願いいたします。



中での行き来はできません

何かご不明な点がありましたらお近くのスタッフへお声掛けください。

なお、採血・採尿を行うときの流れについて受付機の上に大きく掲示しておりますので、そちらもご覧ください。

最後に、今回の機器更新に伴い、今後は採血受付時間の延長を予定しております。患者サービスはもちろんのこと、医師・看護師の負担軽減にも貢献できるよう、今後もスタッフ一同精進してまいりますので、ご協力の程何卒よろしくごお願い申し上げます。

(臨床検査・輸血部 田丸奈津子)

永年勤続者表彰

勤労感謝の日にあわせ、平成29年度の本学永年勤続者表彰式が、11月21日（火）午後1時30分から第一会議室で行われました。

表彰式は、役員及び所属長の列席のもとに行われ、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、学長から永年にわたり本学の発展、充実に尽力されたこと

に対する、感謝とねぎらいの挨拶があり、これに対して被表彰者を代表して図書館情報課 田中 愛子 係長から、謝辞が述べられました。

なお、被表彰者は次の方々です。（敬称略五十音順）

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 伊藤 浩 (整形外科学講座) | 笹田 豊枝 (緩和ケア診療部) |
| 稲場 幸子 (7階西ナース・ステーション) | 佐藤 伸之 (教育センター) |
| 奥村 利勝 (内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)) | 田中 愛子 (図書館情報課) |
| 押方 智子 (4階西ナース・ステーション) | 森脇 里美 (4階東ナース・ステーション) |
| 久保 千夏 (経営企画部) | 横井 由紀子 (8階西ナース・ステーション) |



平成29年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来患者数 延	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介率	入院患者 数 延	一日平均 入院 患者数	稼働率	前年度 稼働率	平均在院 日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
7月	31,395	1,569.8	96.1	1,330	87.9	16,285	525.3	87.3	90.0	12.4
8月	33,265	1,512.0	95.4	1,304	85.3	16,025	516.9	85.9	83.4	11.8
9月	31,383	1,569.2	96.0	1,230	88.3	15,808	526.9	87.5	86.0	12.7
計	96,043	1,549.1	95.8	3,864	87.1	48,118	523.0	86.9	86.4	12.3
累計	191,407	1,543.6	95.8	7,784	88.1	95,370	521.1	86.6	87.3	12.3
同規模医科大学平均	143,126	1,174.3	91.8	8,085	81.2	94,897	518.6	84.9	84.5	13.8

編集後記

明けましておめでとうございます。臨床検査・輸血部での病院ニュースの広報担当、野澤です。当部でも広報室を担当させて頂いております。昨年9月頃、当部から各診療科の先生方、また各科看護師長宛てに、臨床検査・輸血部に対するアンケート調査を実施させていただきました。各科関係者には、ご意見・ご要望をたくさん賜りまして、この場をお借りしまして御礼申し上げます。当部では、頂きましたご意見・ご要望に対して臨床側へ還元できるよう検討していこうと考えておりますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

当部の広報室では、私は室長を務めております。まだ設立してそれほど時間が経っておらず、今回の院内アンケート実施が初の広報室の業務でありました。今後も広報担当として、院内活動はもちろんのこと、臨床検査・輸血部のいろんなところを、皆さんにお伝えできればと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

時事ニュース

- 11月 8日 (水) がん診療連携拠点病院研修会 (土別市立病院)
- 11月11日 (土) JAZZライブコンサート
- 12月 2日 (土) ギター部JAZZ研究会合同クリスマスコンサート
- 12月 3日 (日) 室内合奏団クリスマスコンサート
- 12月 9日 (土) 吉田朋代ピアノ弾き語りコンサート
- 12月10日 (日) プラスアンサンブルクリスマスコンサート
- 12月17日 (日) 合唱部クリスマスコンサート
- 12月24日 (日) リハバンドザ・ビートルズクリスマスライブ!